

豊原又男 学歴無しながら、労働問題・工場法などへの取組みで官公労に認められ、わが国の「職業紹介事業の父」になった。

とよはらまたお

学問のすすめ1872 = 新潟県蜂岡の旧三根山藩邸で、藩家臣に出世、戊辰戦争に敗れた直後、有名な米百俵の出荷を担当する一方、長谷川から豊原に改姓した春雄の六男に生まれる。

明治6年政変 1873 = 1歳 :

佐賀の乱・・・1874 = 2歳 : 官立新潟英語学校を出た長兄は、この年、樺太、千島交換交渉のため駐露特命全権公使になった榎本武揚の通訳官となって活躍しているが、次兄、三兄は夭折し、四、五兄はのちに教育界に入るが、その末弟、

西南戦争・・・1877 = 5歳 :

大久保暗殺・・・1878 = 6歳 : 母と死別、その後は、継母に育てられるなか、

明治14年政変1881 = 9歳 :

岩倉具視没・・・1883 = 11歳 : 新潟学校中等部に改編されたが、小卒後に進学しようとする者は東京に出るようになり、この年、手島精一が、同志とともに、(東京工業大学の前身)東京職工学校を設立、父は、維新後、本屋を開業し貸金会社を始めていたが、武士の商法で失敗、父は責任をとって自害、破産状態となって、世に抜きんでようと向学心に燃えるも、断念、

帝国大学始・・・1886 = 14歳 :

国民之友始・・・1887 = 15歳 : コレラが流行、感染した長兄も急逝してしまう状況で、新潟学校中等部も廃止になった年、郷土の小学校の代用教員になって、貯蓄に努め、

帝国憲法発布1889 = 17歳 :

帝国議会議始・・・1890 = 18歳 :

大津事件・・・1891 = 19歳 : この年、手島精一が、東京職工学校校長になる。
意を決して、上京、小石川にいた同郷の友人の下宿に寄寓、中等学校の教師を目指すも時間と金足らず、専門学校教師になると、東京物理学校に入学したが、卒業することが目的ではないと退学、実業家になると、英語学校などで学んだ後、同郷知人の世話で、京都の紡績問屋の手代になるも自信を失い、長兄の知友を頼って、大阪に出るも満足できず、結局、東京に戻ったが、この時の経験がのちの活動の原点に。

日清戦争始・・・1894 = 22歳 :

白馬会・・・1896 = 24歳 : 郷土の先輩で長兄友人の東京府会議員に就職依頼、紹介された佐久間貞一に面会するや心服、その厚意で佐久間邸に寄寓し、彼が、安田善次郎と計画していた東京建物の創立に従事、初めて給料を得、下宿の主人が謝絶するも、無理に頼んで、未払い家賃を返済するうち、安田と意見衝突して辞任した佐久間に従い、

子規句歌革新1898 = 26歳 :

*20余年前に、佐久間が起こしていた印刷会社秀英舎に転職し、工場の監事になると、佐久間が取組む職工保護・教育など、労働問題の研究に従い、その命で、各地の工場を視察調査などするうち、秀英舎創業まもなく、八時間労働や養老積立金、徒弟養成制度などで好結果をもたらす、全国の労働者のためにと、工場法制定に向けて活動してきたことで、農商務省が工場法案を提出するに当たって設置した会議の委員に選ばれた佐久間が、出席目前に病没。以後、その遺志を継ぐことが全てと、まず、工場法制定運動に寄与すべく、

Bushidou・・・1899 = 27歳 :

処女作「資本と労働の調和」を刊行。同じ佐久間貞一門下の良きライバル横山源之助の「日本之下層社会」出版を支援し、跋文を寄せる。

ビア/国産化・・・1900 = 28歳 :

日露戦争始・・・1904 = 32歳 :

日露戦争終・・・1905 = 33歳 :

韓国反日暴動1907 = 35歳 :

アヲヲ 創刊・・・1908 = 36歳 :

この間、東京職工学校を創立し、東京高等工業学校と改称後も校長を務め続ける手島精一と親交、熱心な話に触発され、救済事業ではない、労働市場主義に基づく職業紹介機関の設立を企図するようになり、

大逆事件判決1911 = 39歳 :

明治天皇没・・・1912 = 40歳 :

第一次大戦始1914 = 42歳 :

意を決して、秀英舎を依願退職。東京印刷同業組合からの熱心な招聘に耐えきれず、書記長に就任、結果として、業界人との交流が深まり、

民本主義・・・1916 = 44歳 :

ロシア革命・・・1917 = 45歳 :

人生に大事な要素は、(古河市兵衛と全く同じ)運・鈍(努力)・根(気)だけで、処世訓"うどんこ人生"に。
東京府産業課と救護課の嘱託になったことで、井上友一知事と昵懇になったところに、三井家から府に巨額寄付の申し出があり、職業紹介機関の設立を提案して快諾を得た直後、知事が急逝してしまったが、後任の阿部孝知事が、前知事の計画すべてを継承すると宣言したのを受け、それまでの調査研究を集大成、

大暴落・・・1920 = 48歳 :

*名著「労働紹介」の出版となり、第一次大戦のバブル崩壊を受けようになり、東京府の社会事業協会の事業として、神田駅ガード下の公設市場二階に、自ら命名した中央工業労働紹介所が開設され、

原敬首相暗殺1921 = 49歳 :

関東大震災・・・1923 = 51歳 :

職業紹介法も公布・施行される。正式に所長となって陣頭指揮。
米国職業紹介事業概要。内務省嘱託として、ジュネーブのILO総会に、意に反して使用者代表顧問であったが、渡欧視察中、大震災で駅舎とともに全焼、職員一丸となって、万世橋際に飯庁舎を設けて事業する間も、ドイツでの、傷痍軍人向けの義手・義足をを使った職業訓練その他欧米各国で貴重な知見を得て帰国、

護憲三派圧勝1924 = 52歳 :

治安維持法・・・1925 = 53歳 : 中央職業紹介委員会特別委員会委員長福田徳三宛に、「職業紹介所国営二閣スル意見」を提出、東京府少年職業相談所を開設し、内務省から「英国職業紹介制度」を刊行、飯田橋の新庁舎に移る。落成記念に、自ら蒐集保存してきた参考資料展示会を開催、最初に徳川時代のもを展示、出自の誇りも示す。

円本時代始・・・1926 = 54歳 :

海軍軍縮条約1930 = 55歳 :

満州事変・・・1931 = 59歳 :

五一五事件・・・1932 = 60歳 :

「求人者、求職者双方の立場に立つ心の通った職業紹介と、統計調査、実態分析に意を用いた取組みで、やがて、日本一の職業紹介所になって行き間も、念願の国営化運動に取組み続け、

芥川直木賞始1935 = 63歳 :

二二六事件・・・1936 = 64歳 :

日中戦争始・・・1937 = 65歳 :

健保+総動員1938 = 66歳 :

*国営への移管が決まり、秩父宮、同妃が視察に訪れる栄誉を最後に、所長解職となり、現場を離れる。
職業紹介法が改正され、全国の市町村立職業紹介所が、一斉に国営紹介所に移管とともに、厚生省嘱託。府時代を、当初から苦勞を共にしてきた川野温興が貴重な記録「国営前の職業紹介事業」を編著、

日米開戦・・・1941 = 69歳 :

創価学会検挙1943 = 71歳 :

年金+総武装1944 = 72歳 :

敗戦・・・1945 = 73歳 :

新憲法施行・・・1947 = 75歳 :

敗戦後も、厚生省職業安定局に籍をおいていたが、健康が優れず、

没した。
職業紹介事業を救済事業ではない産業機関として国営にすべきであると主張した先駆者であることもさることながら、学歴無くとも挑戦し続けて、在野の教育者となり、桑田熊蔵が、「労働紹介」の序文に書いているように、社会政策の実務家であり、その本文中に、労働紹介所がすべきことを、体系的かつ具体的、そして、起こりそうな諸問題についての対処の仕方まで緻密に記していることなどを見るだけでも、デザイナーの極ともいえる人物であった。